

## 観光社会資本の事例

テーマ	伊香保温泉の石段街
【施設の状況写真】	
	
<p>伊香保温泉のシンボル「石段街」。石段には与謝野晶子の歌も刻まれています。</p>	<p>榛名山のカルデラに生じた火口原湖。湖面には、榛名富士の優美な姿が映し出されます。</p>
【施設の利用写真】	
	
<p>伝統の湯の花まんじゅうなど、さまざまなおみやげ屋が、石段街にならんでいます。</p>	<p>春から秋にかけては遊覧船やボート、湖が凍結する冬はスケートリンクとして親しまれています。</p>
<p>【観光資源としての利用状況】 年間160万人の観光客が訪れる全国有数の温泉地として発展している。数々の文豪や政財界人の避暑地としても利用されており、歴史的な資産価値の高い温泉地でもある。また、近隣にはワカサギ釣りなどでも賑わう榛名湖があり、美しい景観と共に人気のスポットになっています。</p> <p>～地域の方々により～ 石段街では、地域の方々の協力による環境整備(プランターの設置や清掃など)をはじめ、観光協会や温泉組合と一体となり、石段街において各種イベントを実施しております。</p>	

(様式2)

テーマ	伊香保温泉の石段街
【社会資本の基礎データ】	
名称	伊香保温泉石段街(町道 54 号香湯神社線)
事業名	石段街再開発事業
事業主体	渋川市
事業期間	昭和 55 年 11 月 1 日 ~ 昭和 60 年 2 月 13 日
【社会資本の役割・効果】	
観光効果	
伊香保温泉は、榛名山二ツ岳の火山活動により西暦約600年頃に温泉が湧出し、その名は万葉集にも詠まれている歴史ある温泉地です。町の中心にある石段街は、約420年前に形成されたと伝えられ、長さは300m、360段あり最上部には伊香保神社がまつられています。この歴史ある町には、徳富蘆花や竹久夢二、与謝野晶子などの文人も訪れ、その軌跡の数々が今も残されています。	
明治22年には、伊香保、湯中子、水沢の3村が合併して旧伊香保町となり、政財界人、文人、外国人の避暑地として賑わい、徳富蘆花の著書「不如帰」の舞台となったことで、伊香保温泉の名は全国に知れわたりました。	
現在では、昭和60年の関越自動車道の渋川・伊香保ICの開設により、年間160万人の観光客が訪れる全国有数の温泉地として発展しており、歴史的な遺産と共に地域の文化を支えています。	
【位置図】	
【関連ホームページ】 旧伊香保町役場 <a href="http://www.town.ikaho.gunma.jp/">http://www.town.ikaho.gunma.jp/</a> 伊香保温泉観光協会 <a href="http://www2.wind.ne.jp/ikaho/">http://www2.wind.ne.jp/ikaho/</a>	